

愛知瀬戸ボーイズ

日曜日のグラウンドに選手の声が広がる。次第に素振りの音、キャッチヤーミットにボールが収まる音が響きだす。

愛知瀬戸ボーイズが3月に開かれた

愛知県西支部大会で優勝し、全国大会出場を決めた。

結成2年目から部員増加 実績を残して確実に成長

『誰かの為に生きてこそ、人生には価値がある』という言葉を知っていますか」と愛知瀬戸ボーイズの監督、鈴木正秀さんは話し始めた。目標の先には、2016年夏の甲子園に出場し16強の成績を残した東海大甲府高校（山梨県）で現主将を務めるOBの姿がある。「彼は高校でBチームながら、その人間性を評価されてキャプテンに抜擢されました。愛知瀬戸ボーイズは、そういった人間的成长ができるチームでありたい」と話す。後輩たちに隔てなく、褒めながら細かくアドバイスする姿からも、その人間性がうかがえる。

2009年、地元の有志が集まって、17人の選手とともに創部。これまで日本選手権、全日本中学野球選手権大会ジャニアントカップへの出場経験がある。



鈴木正秀監督
「小学生で全国大会に出席した選手など、意識の高い子どもが集まっています。上手い、下手ではなく、野球がしたい! というメンバーが来てくれるとうれしいです」

2015年のジャイアンツカップでは、苫小牧中央P（北海道）、大阪福島LS（大阪）、小樽LS（北海道）などと対戦し、ベスト8進出を果たした。今回、第47回日本少年野球春季全国大会への出場権を得たことで、4度目の全国挑戦となる。

結成当初から優れた成績を残したこと、多くの選手が広範囲から集まってきた。いまは新2年生21人、新3年生17人が所属。新入生が加わると50人を超える。野球に向かう姿勢や考え方において、基本的なことを徹底的に教え込む。高校野球部で精神的即戦力となれるよう教育したいと監督はいう。

モットーは「野球100%、勉強100%」。高校での指導歴が長い監督が率いる選手たちは、おとなしい。気迫を出して取り組めば、もつといい成績を残せる」と期待を寄せる。一方で「素質はあるが、努力が足りない。まだまだ中途半端なプレーも多い」と厳しさも見せる監督。現在3人の2年生がメンバー入りしている。ベンチ入りを狙って、多くの下級生がさらに力をつけていくことを願う。

「創部から10年。卒団していくたった選手たちが甲子園に出たりドラフト候補になつたりと、活躍を見せてくれるようになつた。今後も技術的、人間的に優れた選手を育てていきたい。さらには我々に希望の高校に進んでプレーができるようにな」と繰り返す監督の言葉から、選手への愛情を感じた。全国の舞台での大きな

野球が好きな子どもを受け入れる すべての子どもを受け入れる

愛知瀬戸ボーイズは人間に際してセレクションを設けていない。野球が好きとう気持ちがあれば、誰でも加入可能。父母会も置かず、監督とコーチの4人が指導にあたっている。

練習は瀬戸市内、または近郊のグラウンドで週末に行う。長期休暇は平日にも実施。実践に近い練習を繰り返し、失点を可能な限り抑え、守備で勝ち進むスタイルを仕上げていく。練習中は、野球少年少女らしく、全員

がきびきびと動く。数年前から女子の入部もあり、活気づいている。コーチが1プレー1プレーを確認しながら、改良を加えていく。長期休暇にはOBが足を運ぶことも多く、経験から生きた情報を後輩たちに伝えている。

野球が好きな子どもを受け入れる

「現チームはおとなしい。気迫を出し

て取り組めば、もつといい成績を残せる」と期待を寄せる。一方で「素質はあるが、努力が足りない。まだまだ中途半端なプレーも多い」と厳しさも見せる監督。現在3人の2年生がメンバー入りしている。ベンチ入りを狙って、多くの下級生がさらに力をつけていくことを願う。



清々しい笑顔を見せる選手。練習が始まると一変、真剣なまなざしになる



林泰成くん

3年生【主将】

「このチームで全国制覇したい。そのため、みんなの気持ちをひとつにまとめ、全員野球で優勝を目指して戦います!!」



岡島弘明くん
3年生【内野】

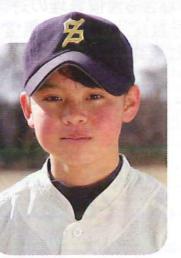
「強いチームだと知っていたので入りました。小学生に時に出来なかつた全国制覇をこの大会で目指します。将来はプロ野球で活躍したいです」



富田翔伍くん

3年生【投手・外野】

「体験に来たときに見た先輩がとてもかっこよかったです。みんなで声を掛け合ってプレーする様子にひかれました。阪神の糸井選手のようなバッターになりたいです」



藤原和那子さん
3年生【左翼】

「お兄ちゃんが入っていたので、私も野球をしたくて入団しました。守備の練習をしているときが、とても楽しい。バッティング力も磨いていきたいです」